

令和2年度小論文試験 推薦入試 I (A 推薦, B 推薦), 帰国生特別入試

(試験時間 90 分)

問題 次の問 1～問 3 の設問に答えなさい。

問 1. 日本の食料自給率は、長期的に見て低下傾向にあり、自給率の向上が課題となっている。下の表は、農畜産物における品目別の国民 1 人・1 日当たり供給熱量 (カロリー) の推移を示している。また図は、供給熱量ベースの総合食料自給率および飼料自給率の推移を示している。表と図を利用して以下の問いに答えなさい。

- (1) 1975 年から 2015 年の過去 40 年間で、供給熱量の増加率と減少率が最も大きかった品目は何か答えなさい。また、1975 年の供給熱量を 100% としたときの、それらの増加または減少率を示しなさい (四捨五入して小数点以下第一位まで)。
- (2) 日本の食料自給率が過去 40 年間で低下した主な要因を、表と図を利用して 150 字程度で説明しなさい。ただし、総合食料自給率の算出の際、輸入飼料を使って生産された畜産物は国産には算入されません。

表. 過去40年間 (1975年～2015年) における品目別の国民 1 人・1 日当たり供給熱量 (単位: kcal) の推移

品目	1975年	1985年	1995年	2005年	2015年
米	856.4	727.3	659.6	598.9	534.0
小麦	316.8	319.7	329.7	319.9	328.6
いも類	39.0	46.1	50.2	48.6	46.4
豆類	107.3	103.6	101.1	107.6	98.2
野菜	78.0	85.5	84.2	77.6	73.5
果実	57.7	57.3	66.0	70.2	61.3
肉類	105.1	133.3	169.3	166.6	177.6
鶏卵	60.7	60.1	70.8	68.6	69.6
牛乳及び乳製品	87.9	123.9	159.5	160.9	159.3
その他食料	809.4	939.7	963.4	953.9	867.6
合計	2,518.3	2,596.5	2,653.8	2,572.8	2,416.1

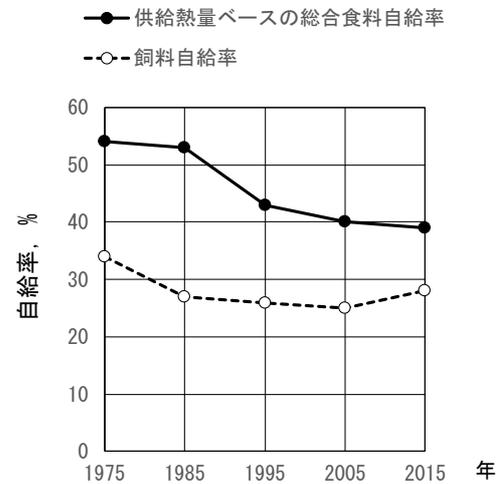
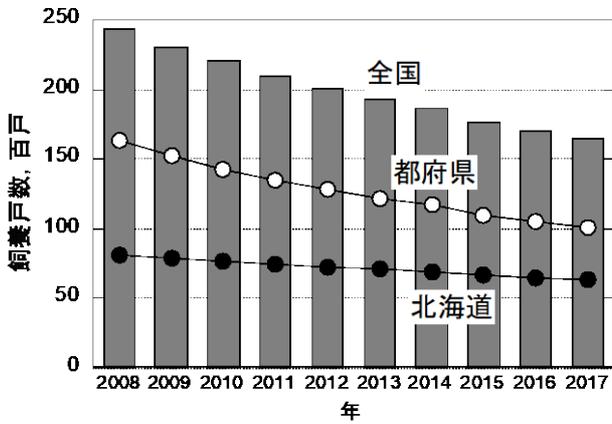


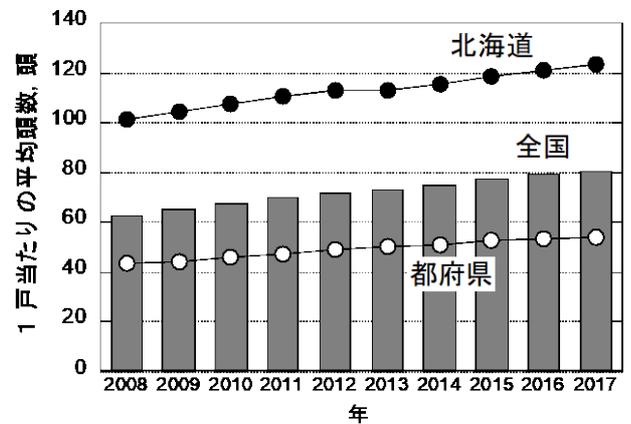
図. 過去40年間 (1975年～2015年) における供給熱量ベースの総合食料自給率および飼料自給率の推移。

出典: 「食料需給表」(農水省) より作成

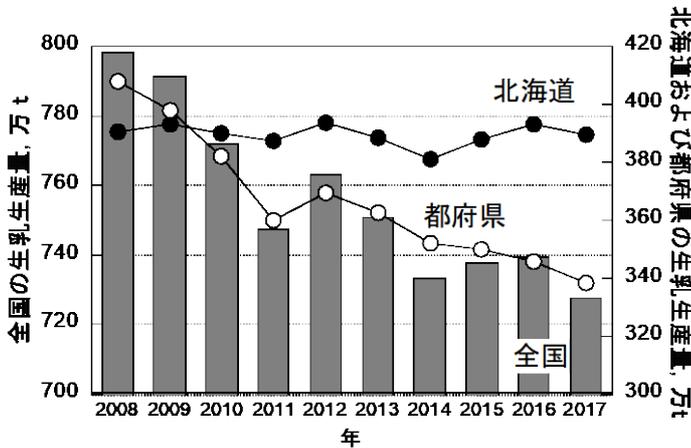
問2. 下のA~Dの図は、2008~2017年の10年間における日本の酪農家の、A：飼養戸数、B：1戸当たりの飼養頭数、C：生乳生産量、D：搾乳牛1頭当たりの飼料費の推移を示したものである。全国、都府県ならびに北海道のこれら4つのデータを比較して、北海道酪農の特徴を350字程度で説明しなさい。



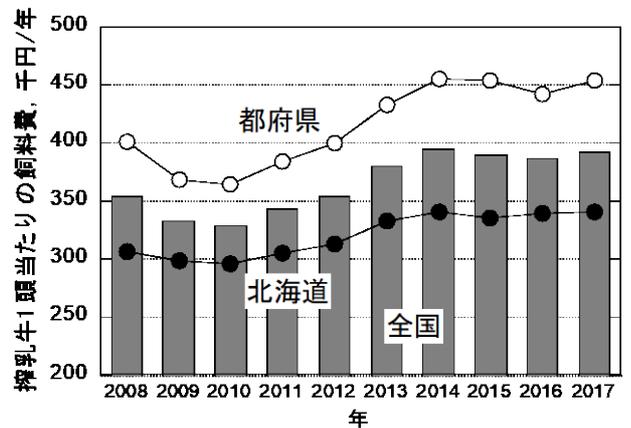
図A 飼養戸数の推移



図B 1戸当たりの平均飼養頭数の推移



図C 生乳生産量の推移



図D 搾乳牛1頭当たりの飼料費の推移

出典：「畜産統計」，「牛乳乳製品統計調査」，「畜産物生産費統計」（農水省）より作成

問3. 現在、世界的に「持続可能な開発目標（SDGs）」を達成するために17の目標を掲げ、様々な取り組みが行われている。その中の目標2に『飢餓に終止符を打ち、食糧の安定確保と栄養状態の改善を達成するとともに、持続可能な農業を推進する』ことが明記されている。日本または世界において、食料自給率の向上や安定的な食料生産を図りながら、持続可能な農業を推進するためにはどのような取り組みを実践していかなければならないと思うか、400字程度で述べなさい。